

救いを得る信仰

1. 信仰は、何によって、構成されていますか。

信仰には、先ず、知識がなくではなりません。知識がない信仰は、信仰ではありません。知識に基づく同意が必要です。特に、救い主が必要な事実と、イエス・キリストだけがすべてを充足させる救い主である事実に、同意しなければなりません。救い主が必要というのは、自分は罪人であり悲惨な状態にいて、自分自ら悲惨から抜け出るには霊的無能力者だという事実に同意することです。知識もあって、その知識に同意したとしても、必ず、キリストに依存してこそ真の信仰になるのです。

2. 知識と同意があれば、救いを得る信仰ですか。

救いを得る信仰に進み出るためには、知識と同意が必ず必要です。勿論、その知識は表面的な知識ではなく、三位・神の贖いの御業に対する知識がなくではなりません。ところが、知識だけを持っている状態では、救いを得る信仰を持っているとは言えないからです。三位一体・教理に対する知識と、キリストが世の救い主という知識を持っていることを、歴史的な信仰と呼びます。このような信仰は悪霊たちも持っています。しかし悪霊たちは、キリストを信頼し

て、頼ったりはしません。それゆえ、歴史的な信仰それ自体では、救いを得る信仰ではないのです。

知識に同意するのも同じです。救いの教理と、その教えについて同意が必要ですが、それ自体が救いの信仰ではないのです。岩地に蒔かれた種の比喻で、御言葉を聞くと喜んで受け入れるが、御言葉のために困難や迫害が起きると、その御言葉を捨てるという内容です（マタイ 13:20-21、ルカ 18:3、14）。このことは、知的に救いの教えに同意したとしても、その御言葉が、その心に有効になったわけではないからです。この場合を一時的な信仰と言いますが、これもまた、救いを得る信仰ではないのです。多くの偽善者が、歴史的な信仰、あるいは、一時的な信仰によって自分を騙しています。このような者たちのうちにある御言葉は、救いを得る効力などが現われないのです。

3. 賜物的な信仰、あるいは、奇跡の信仰は、救いを得る信仰ですか。

マルコの福音書 16 章 17 節で「信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語り」と記しています。ここで「信じる」というのは、賜物的な信仰のことです。賜物的な信仰、それ自体は救いを得る信仰ではありません。それは、聖霊の一般の働きの中で、教会の使役のために与えられる賜物です。一方で、約束の言葉について非常な方式で信仰を持つようになり、それに伴う非常な効果が現われたりもしますが、これを奇跡の信仰と言います（I コリント 13:2、マタイ 21:2, 7、マルコ 9:3、使徒 14:9-10、ルカ 17:19）。このような奇跡の信仰も賜物的なものとして、救いの信仰ではないのです。従って、聖霊の特別な働きによって救いに至らせる信仰と、賜物的な信仰とは区別されるべきです。勿論、教会史の中で、聖霊による賜物を、信仰の段階より、最も高い段階として見る神学もありますが、これは、

聖書を曲解した解釈です。聖書には、聖霊の賜物はあったけれど、救いの恵みはなかった者がいました。バラム預言者、サウル王、イスカリオテ・ユダ、デマスが、その代表的な人物です。彼らは預言をし、奇跡を行いました、救いの恵みはありませんでした。

4. 信仰の本質とは、何ですか。

信じるというのは、キリストに出て行くことです。キリストに行くことと、信じるというのは同じ意味です（ヨハネ 6:35、64-65）。霊的に目覚める罪人に現われる信仰とは、第一の御業として、罪に対して神の怒りを避けるためにキリストに出て行くことです。これは福音を通して、キリストの中に罪の赦しがあることを悟ってキリストに走って行くことです（詩 36:7）。キリストに出て行く時は、この世に目を向けてはならない、困難や妨害があっても、あらゆる力を尽くして出て行くことです。これこそ真の信仰です。

キリストを信じるというのは、キリストに頼って、委託して、依頼することです。キリストを信じるとは、キリストに結合してキリストに密着することです。信仰はキリストを掴むことです。キリストを離せば、押し流されてしまうことを良く知っているからです。信仰は、キリストに自分を任せることです。また、キリストを食べて飲むことです（ヨハネ 6:48-58）。霊的命のためにキリストを信じることを、キリストを食べ、飲むと表現します。キリストを信じるというのは、キリストの義と罪の赦しを得るために、キリストを受け入れるということです。

5. 救いを得る、信仰の確信は、何ですか。

救いを得る信仰の確信は、ただキリストに頼ることです。キリストのみが私を救い得る方だと悟って出て行くことです。キリストのみが私の罪を赦すこと

ができ、キリストを通してのみ救われることを悟ってキリストを掴むことです（イザヤ 56:4）。信仰は、キリストを掴むのに道具です。この時私たちは、信仰によってキリストを遣わした神の贖い計画を悟って、神の知恵と卓越性を賛美するようになります。ヨハネの福音書 17 章 3 節では「永遠の命とは、唯一のまことの神と遣わされたイエス・キリストを知ること」と語っています。つまり、御父と御子の間で、罪人を救うための神の計画、それを実行なさったキリストについて悟り、ただキリストのみを救い主と掴むことです。これが救いを得る信仰の核心です。

6. キリストを信じることの、前提は何ですか。

単純に、表面的なメッセージを受け入れ、それに同意し、信じますと告白するのは、信仰ではありません。キリストを信じるためには、先ず、律法と聖霊によって自分の罪を悟らないとだめです。そして自分の罪に対する、神の怒りと審判があることを知らないとだめです。また、自分が不義だと言う事実も悟らないとだめです。一方で、神の怒りから逃れるために、自分の罪をなくすために律法を守ろうとしても、決して自分の正しい行為によっても、自分を救えないことを悟ることと、自分がどれほど霊的に無能な者かと知らないとだめです（ガラテヤ 2:16）。このような霊的状态の時に、福音を通してキリストの中に罪の赦しを用意されていて、自分の不義を覆える義があることを悟って、キリストに走って行くのです。従ってキリストを信じるためには、キリストに対する十分な知識がなくてはならず、自分の腐敗性や霊的無能や悲惨さを知っていなければならないのです。

7. 聖霊は、信仰をどのように、発生させますか。

聖霊は、罪を叱責される中にいる罪人に、福音を通して、キリストが絶対的必要性とその価値を悟らせて、キリストが自分には絶対に必要な救い主であることを知るようにさせます。聖霊は、その者たちに、キリストに対する強烈な熱望を起こさせ、キリストに走って行くようにさせますが、そのために聖霊は、彼らの腐敗性、無能な意志を更新させます。聖霊の御業によって発生されたキリストに対する熱望が、キリストに出て行く道の霊的障害物や、多くの苦しみまでも克服させます。聖霊の御業によって信仰をプレゼントとして賜った者は、まるで真珠を探していた商人が真珠を見つけた時のように、すべての持ち物を売って、その高い真珠を買うためにキリストに出て行き、キリストを掴むのです (マタイ 13:45-46)。

8. 救いを得た、信仰の効果は、何ですか。

救いを得た信仰の効果は、キリストに対する深い尊敬とキリストに似ようとす強烈な思いを持ち、キリストに向けられる、冷めることの知らない愛があるのです。また罪を憎み、罪と戦おうとする熱望が強く起こります。なぜなら、キリストが憎むことを憎み、キリストが命令することを守ろうと努力するようになるからです。従って救いを得る信仰を持っている人は、キリストが要求なさる通り自分を否定し、自己十字架を負い、毎日キリストについて行きます (ルカ 9:23, 14:26-27)。真の救いの信仰は、死んだ信仰ではなく、生きている信仰として、霊的に生き生きした感情を持ち、成長するために労苦を続けます。

9. 救いを得る、信仰の程度は どの程度ですか。

救いを得る信仰と言っても、ある人は強い信仰を持っていて、ある人は弱い信仰を持っています。強い信仰は苦難があっても、キリストを強力に掴みます。しかし弱い信仰は、困難の時には揺れたり、時々疑ったりもします。しかしキ

リストは、弱い信仰と言っても、傷んだ葦を折ることもないように、その者を捨てません（マタイ 12:20）。ペテロも弱い信仰の所有者でした。それでサタンが彼を利用してイエス・キリストを攻撃したのです（マタイ 16:22-23）。彼の信仰が完全でなかったからです。勿論、ペテロもイエスさまから責められました。それゆえ、信仰は成長しなければならず、強くならなければならないのです。

主は、私たちの信仰を強化させるために恵みの手段を与えました。私たちは祈りを通して信仰が強くなります。そして堅い御言葉を通して、あるいは、より高い水準の御言葉を通して信仰は強くなります。また、礼典を通して私たちの信仰は強化されます（ロマ 4:11）。従って私たちは、信仰の初歩の状態に満足して留まってはならず、さらに成長するために恵みの手段を使用すべきです（ヘブル 5:13 - 14）。

10. 恵みの手段の下にいながら、悔い改めない者たちの、特徴は何ですか。

聖霊の有効な御業によって発生された救いを得る信仰は、キリストを掴むようになります。信仰によってキリストを掴めばキリストに結合されます（ロマ 6:3）。このように結合されれば、キリストにあって神が用意してある救いの恩恵を受けるようになります。罪の赦しを受け、義と認められます。そして、神の家族となり、神を「アバ・父」と呼び、自分の救いについて確信を持つようになります（ロマ 8:15）。

また、聖なる生活を生きることができ、聖なる恵みを受けるようになります。ますますキリストにあって確信と、良心は平和を味わいます。このようにキリストの中にある救いの恩恵が、生活を通して具体的に変化の証拠が現われれば、人々はこのような変化を見て、彼らをキリスト者と言われ、神の民として知られるようになります。